

主な取組事項		令和6年度の主な取組結果	令和7年度の主な取組予定
① 運営編 (札幌市の取組)	(1) 安定した収入の確保 ① 販売・集荷力の強化支援 ② 輸出促進支援 ③ 市場使用料の見直し ④ 市場内空室の解消 ⑤ 施設の有効活用 など	(①関連) 販路拡大支援事業として、新たに4件の補助事業を採択。また、産地連携支援事業を新設。 (②関連) 輸出ブランド化事業として2件の補助事業を採択。  (④関連) 場内、インターネット（HP、SNS）を利用した空室情報の周知きめ細かい状況の更新。 (⑤関連) 札幌競馬開催期間中の日曜日に、駐車場の一般開放を実施。	(①②関連) 販路拡大・輸出拡大支援事業として、新たに4件の補助事業を採択（継続分とあわせて計8事業）。また、産地連携支援事業では1件を採択。 (④関連) 前年度の取組の継続、多様なニーズに対応できる空室環境の改善検討。 (⑤関連) 前年度と同様、駐車場の一般開放を実施。
	(2) 継続的な支出の抑制 ① 計画的な施設の更新 ② 事務経費の削減 ③ 資源リサイクル施設のあり方検討	(①関連) 青果棟屋上防水改修など市場運営に関わる主要な改修事業を継続実施。 (③関連) 資源リサイクル施設停止に向けた問題点の解決に向けた検討を実施。	(①関連) 保全計画に基づいた水産棟冷凍設備改修など、主要設備の改修事業に着手。 (③関連) 現状や今後の停止時期、停止後における影響等の状況も踏まえ、施設の方向性を検討。
	(3) 社会的要請への対応 ① 危機管理体制の増強 ② 多様なエネルギー機器の導入支援 ③ 観光客の取り込み ④ 食育ツアーの実施 など	(②関連) 構内運搬車の電動化に向けた場内事業者との検討を継続し、施設整備の設計を開始。 (③関連) 富裕層インバウンドの誘致計画に伴い、観光業者向けツアーを実施。 (④関連) 小学生向け食育ツアー開催（夏冬1回）。	(②関連) 前年度と同様、施設整備に向けた設計検討の継続。 (③関連) 観光客の取組みに関し、他部署と連携し、方策を検討。 (④関連) 小学生向け食育ツアー開催（夏冬1回）。

### ○産地連携支援事業について

**【課題】**  
後継者・作業員の人員不足等に伴う集荷の維持困難が予想されることから、市場機能を維持するためにも、道内市場等との連携強化が課題。

**【対応】**  
札幌市民への青果物の安定供給、適正な価格形成、量販店等ユーザーの幅広いニーズに対応した品揃え・物量の確保という市場機能の維持を図るため、道内産地と連携し長期の安定集荷を目的とした事業に対して、本市がその経費の一部を補助する事業を令和6年度から開始。また、今後水産物への展開についても検討する。

**【令和7年度採択事業】**

- ①事業内容  
本来入荷しない休日（主に火曜日夜・土曜日夜入荷）の荷物対応、運搬費補助
- ②実施時期  
6月～9月を中心とする
- ③連携の産地  
JA新はこだて（北斗市）
- ④集荷予定品目  
長ねぎ、にら、トマト、等



(七飯町集出荷予定施設の様子)

### ○構内運搬車の電動化について

**【課題】**  
天然ガス仕様の構内運搬車の製造終了により新規調達が可能にならないため、電動運搬車の導入に向けた検討が必要。

**【対応】**  
令和10年度予定の電動車両の使用開始に向け、場内事業者と一体となり、以下の項目の検討を継続して行っている。

- 電気設備の増強
- コンセント設置位置検討
- 車両台数
- 施設使用料などの運用ルールなど




(ターレットとフォークリフト) (テスト車両の様子)

② 活性化編（市場関係事業者の取組）

主な取組事項	令和6年度の主な取組結果	令和7年度の主な取組予定
(1) 地域経済に貢献する市場 ① 市場事業者の取組（共同・新規） ② 取引ルールの見直し ③ 食育事業及び消費拡大事業の推進 ④ SNSを活用した情報発信 ⑤ 各事業者の人材確保 ⑥ 事業所内保育所の整備検討 など	(①関連) 運営編(1)①と同様。 (②関連) 農水省通知に基づく新規売買参加者承認対象の見直し（関係要領の改正）を実施。 (④関連) 公式Xにて、旬の食材や初入荷等のイベントを紹介（投稿数209件）。 (⑤関連) 人材確保講習会を実施。 (⑥関連) R5年に事業所内保育所は整備しないこととし、企業主導型保育所の情報を場内周知。（8月、11月頃の2回）	(②関連) 卸売市場法の一部改正に伴い、業務規程で定める公表事項等について所要の改正を行う。 (④関連) 公式Xにて、旬の食材や初入荷等のイベントを紹介。 (⑤関連) アンケート調査の結果を踏まえ、人材確保講習会のテーマを選定し実施。 (⑥関連) 昨年度に引き続き、企業主導型保育所の情報を場内周知を検討。（R7は7月、下半期の2回）
(2) 環境負荷の少ない市場 ① 物流の効率化 ② 施設等利用実態の整理と受益者負担の適正化 ③ 環境負荷軽減に向けた取組 など	(①②関連) 夏冬の繁忙期に施設利用実態調査を実施。 (②③関連) 一般ごみの受益者負担額に係る引き上げ時期及び金額単価を決定し、併せて、生ごみ排出量の削減に取り組んだ。	(①②関連) 施設利用実態調査結果により、ゾーニングなど場内整理の見直しに着手予定。 (②③関連) R7.4から一般ごみの受益者負担額を引き上げ、R8.4についても金額引き上げ予定。また、前年度の引き続き、生ごみ排出量の削減について取り組む。
(3) 安全・安心を守る市場 ① 市場内の人材育成 ② 各社のコンプラ意識の向上 ③ HACCP等に沿った衛生管理の徹底 ④ 食文化・食育の振興、市場魅力発信 ⑤ 統計情報等の適正な提供 など	(①②関連) カスタマーハラスメントをテーマとした講習会を開催。 (④関連) 学生による取材・編集を経た記事14本とショート動画15本、および各団体の情報提供により作成したショート動画20本を配信。	(①②関連) 各種ハラスメントや、SNSを利用した犯罪トラブル等をテーマとした講習会を開催予定テーマは今後選定) (④関連) 北海道産プリの普及に向けた調理専門学校との協力企画の実施

○物流の効率化について

**【課題】**  
荷下ろし時の仕分け作業の煩雑化等を背景とした荷下ろしの長時間化が課題。

**【対応】**

- ①パレット化の一層の推進  
パレットに荷積み、フォークリフトで荷下ろしすることで作業時間を短縮、場内でパレット積み車両の優先レーン設定などパレット化を推進。
- ②システム化の推進、荷下ろし作業の人手確保  
トラック到着予約システムの導入や、卸売業者と荷役業者が作業チームを構成、売場内作業を行うなど、作業・拘束時間の短縮化を推進。
- ③荷受所を場内に移設  
作業の見える化、事務の集約など推進。



(荷捌き優先レーンの表示)



(青果棟荷下ろし作業の様子)

○魚食普及に向けた取組について

**【課題】**  
近年北海道での漁獲量が増加している魚種について、もっと市民に親しみを持ってもらい、食文化として浸透させていくことが課題。

**【対応】**  
令和7年度は、北海道での水揚げが増加している「プリ」の消費拡大に向けた事業を水産協議会で実施。

**【実施内容】**

- ①プリに関する講習の開催  
市内の調理専門学校の学生110人に対して、プリに関する座学とさばき方の実演を実施
- ②レシピコンテストの開催（9月以降に開催予定）  
同学校の学生によるプリを使ったレシピコンテストを開催。コンテストでグランプリとなったレシピについては、市内ホテルのビュッフェメニューとして提供する。



(プリの解体実演の様子)